

由井 浩

白山から茗荷谷まで

6月の中旬に梅雨時の光景を写真に撮ろうと思い、東京都文京区の白山から茗荷谷まで歩いた。初めに巣鴨駅から地下鉄三田線に乗り、大手町方面に2つ目の白山（ハクサン）駅で降りた。駅から西に3分ほど歩いて都内有数のアジサイの名所として知られている白山神社に行った。拝殿前でアジサイの花に囲まれた手水舎が穏やかに迎えてくれた。拝殿で参拝してから境内の至る所で咲いているアジサイの花を見て回った。



白山神社手水舎

アジサイには普通のアジサイとガクアジサイの2種類がある。ガクアジサイの花は中心部に多数の小さい両性花があり、その周囲に4個の大きな花弁状の顎片（ガクヘン）からなる飾り花が突き出ている。普通のアジサイの花はガクアジサイの両性花が全部飾り花に変化したものとのことである。境内には飾り花の色や大きさの異なる沢山のアジサイ、ガクアジサイが咲いていて、飽きることなく写真を撮った。



境内の奥に進んで行くと、飾り花が下に向けて咲いている変わったアジサイの花が目にとまったので興奮しながら何枚も写真を撮った。ボランティアガイドの人が数人を引き連れてそのアジサイの所に来て、「これはカシワバアジサイです。葉の形が柏の葉に似ているので、こう呼ばれています。」と説明しているのが耳に入った。



飾り花が下に向けて咲いているアジサイ

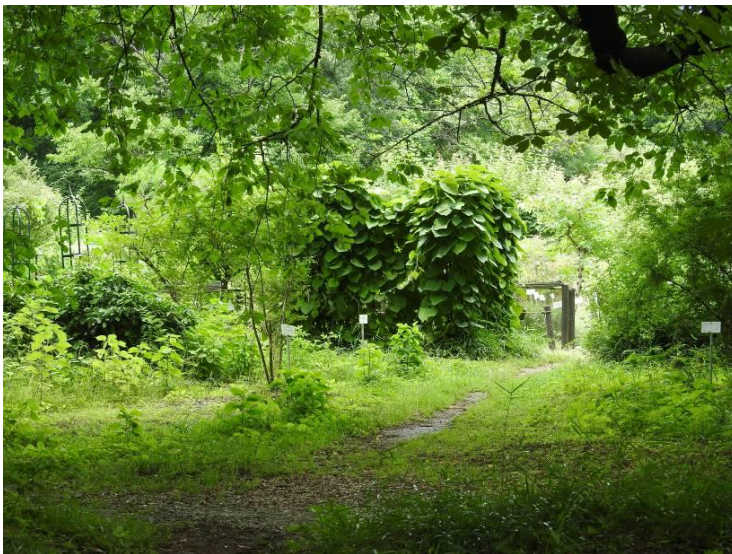


自分の興味は飾り花の咲き方が他のアジサイとずいぶん違うことに集中していたために気が付かなかったが、葉に目を向けると切れ込みがあり、楕円形の普通のアジサイの葉とは違っていた。

白山神社を出て白山駅に戻り、南西方向に10分ほど歩いて次の目的地の小石川植物園に行った。正門から入り、坂を上りきったところにある本館の周囲に咲いているアジサイの花を見て回った。通路から少し離れた所に白い飾り花が沢山付いているガクアジサイが咲いていた。これまでに見かけたことがないタイプなので、実験木かも知れないと思った。



白い飾り花のガクアジサイ



お昼時になったので、軽い昼食を取ろうと中央通路沿いの売店に入った。屋外のテーブル席で山地植物栽培地の方向に椅子を向けて眺めていると、梅雨の晴れ間の日が差し込んできて緑の別世界が出現した。

←緑の別世界

植物園を出て、播磨坂を通過して地下鉄丸の内線の茗荷谷（ミヨーガダニ）駅に向かった。播磨坂は春には“文京さくらまつり”が行われる桜の名所で、車道の真ん中にある広い緑道が近所の人達や訪れた人達の憩いの場となっている。

緑道の南西端の春日通りに面したところに“街角の応接室”と名付けられた一角があった。その応接室のベンチに座り、白山神社と小石川植物園で撮ったデジカメの画像を植物の多様性に感嘆しながらゆっくり見た。応接室を出て春日通りを西に5分ほど歩いて茗荷谷駅に着いた。

今回のルートは“山”から“谷”に向かったのが下り坂が多くて歩くのが楽かと思っただが、何故か上り坂が多い道のりだった。



街角の応接室